

地域のためにできること～地震災害を想定して～（第5学年）

平群町立平群北小学校 中澤 哲也

（1）単元名

「地域のためにできること～地震災害を想定して～」

（2）単元の目標

- ・役場の方や地域の防災士の方のインタビューを通して、地域の防災体制について理解することができる。

【知識・技能】

- ・公助や共助に取り組んでいる人々との出会いを通して、地域の防災活動に関心を持ち、自分たちも地域の一人として防災活動に関わっていこうと自覚することができる。

【思考・判断・表現】

- ・避難所体験を通して、避難者の気持ちに寄り添い、自分たちにもできることを考えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

（3）単元について

・教材観

2016年10月21日に起きた鳥取県中部を震源地とする最大震度6弱の地震が発生した。県内で特に被害の大きかった倉吉市では、事前に準備していた行政の防災体制によって被害状況を把握したり、避難所を早急に開設したりするなど、被害を最小限におさえることができた。また、倉吉市の市役所に隣接する倉吉市立成徳小学校では、管理職を中心として教員が避難所の設営に携わるだけでなく、児童も体育館の御座引きを手伝ったり、PTAが作った炊き出しを避難所の人たちに配布したりするなど、自分たちができることを考え動いていた。

本単元では次の二つをねらいとし、学習を進めていく。一つ目は鳥取県倉吉市の行政の動きを切り口に、自分たちの地域の防災体制について興味を持ち調べていく。平群町役場の防災課によると町の防災体制の基本は「平群町災害時職員初動マニュアル（27年4月）」というものに明記されており、大地震（震度5強以上）が起きた時に「災害対策本部体制」が設けられ、被災住民の救助、避難及び災害応急対策を実施するようになっていく。主に被災情報の収集・伝達活動、住民の救出活動、被災住民の避難、避難所の開設である。それぞれの動きは役割分担がされており、各部の任務は時系列表としてまとめられている。また、町内各地に防災備蓄を備えたり、携帯電話を利用して、エリア周辺の災害状況をメールで知らせてくれるエリアメールも備えられたりするなど、日頃からいつ起こりうるかわからない地震の災害に対する備えをしている（公助）。また、行政の働きと同じように、地域では地域の防災士が協力し合い、ボランティアで地域の災害対策に向けた活動している団体もある。普段から町民向けの防災教室を開いたり、毎年5月に防災祭りを開催して地域子どもたちに防災の大切さを教えたりしている（共助）。児童は公助と共助によって、地域の防災体制が整えられているということや、災害時に被害を最小限にするための事前準備があるということを理解する。また、公助も共助もまずは自分の命があってできることであることから、自分の命を守る（自助）ことが大切であるということを理解する。

二つ目は、倉吉市立成徳小学校の避難所設営時、及び避難所運営時の児童の働きを切り口に、自分たちの学校が避難所になった時にどのようなことができるのかを実際に避難所での設営体験を通して考えていきたい。

・指導観

本単元では自分たちの地域の防災体制に目を向け、実際に地域の防災対策に向けて取り組んでくださっている人たちにきていただき、防災体制の話を開いたり、インタビュー活動をしたりして、自分の町はどのようにして守られているのか、実際に被災するとどのようなことが起こるのか、どのような避難をしなければいけないのかなど、具体的に調べるようにする。また、実際に役場から避難所設営の品をお借りし、体育館に簡易避難所を設営

し、自分たちが被災者になった時にどのようなことが必要になってくるか、また同じ被災者に対してどのようなことができるかなど、体験を通して話し合いながら、自分たちにできることを考えるようにしていきたい。

・ESDの観点

連携性…私たちが安全に、安心してくらししているのは、行政の働きだけでなく、地域の方々の協力体制のおかげである。いつ起きるかわからない地震災害に対して、行政と地域が連携して取組んでいることに気づくことで、持続可能な地域づくりの在り方を協働的に作りあげる社会の仕組みを通して学ぶことができる。

責任性…インタビュー活動を通して地域の防災体制にも多くの人々が自分の役目に責任をもち、日頃から取り組まれているということを学ぶ。また、実際に体育館での避難所体験を通して、被災者の立場になって考えることで進んで防災活動や被災者への支援に参加しようとする態度をもつ。

(4) 評価規準

ア 知識技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①平群町を震災から守るために、行政と地域が連携していることを理解し、まとめている。	①震災に遭ったとき自分の命を守るためにどうすればいいか考えることができる。 ②震災時に自分たちに何ができるか考えている。	①行政、地域の防災活動について意欲的に調べている。 ②学校が避難所になったとき、自分たちも、被災者でありながらボランティア活動ができることを自覚している。

(5) 単元展開の概要 (全7時間)

主な学習活動	学習への支援	◇評価
1. 1995年の阪神淡路大震災や、2011年の東日本大震災の被害について知る。	○社会科の教科書や避難訓練時に見る映像を参考に日本の自然災害とその被害の様子を感じ取らせる。 →地震はいつ起こるか予想できない。	
2. 2016年鳥取県中部地震の時の被害状況や、倉吉市の防災体制について知る。	○倉吉市の役場の資料を基に、行政が迅速に市民の安全のために動いていたことや、事前準備をして備えていたことに気づかせる。	
私たちの町の防災体制はどのようになっているのだろうか？		
3. 平群町の防災体制（公助・共助）について調べる。	○役場の防災課へのインタビュー。 ○地域の防災に取り組んでおられる防災士の安井さんへのインタビュー。→まずは自助が大切。	ウ①
4. 公助・共助・自助それぞれの関わりを模造紙にまとめる。	○インタビュー活動をまとめることで、視覚的に地域と行政が協力していることを再確認することができる。	ア① イ①
5. 避難所体験をする。 ・実際に体育館で寝てみる。 ・被災者の立場になって、何が必要か考える。	○役場から避難所セット（毛布、カンパン、アルファ米等）を実際に利用する。→避難所生活は不便だ。	

<p>6. 学校が避難所になったときに、自分たちでできることを考える。</p>	<p>○平群町には 65 才以上が 80%以上いるので、お年寄りにどんなことができるか。また避難所で生活する方々にどうすれば元気を与えることができるかなど、いろいろな視点から考えさせる。</p>	<p>ウ② イ②</p>
<p>7. 自分たちの考えや取り組みを下学年、地域に発信する。</p>	<p>○発信することで、自分たちも地域の一員であることを強く実感させる。</p>	

〈取材メモ〉

2016. 11. 5

鳥取県倉吉市の成徳小学校体育館及び倉吉市庁舎訪問

2016年10月21日14時7分ごろ鳥取県中部を震源地とする最大震度6弱の地震が発生。津波発生の心配はなかった。鳥取県内で震度6弱以上の揺れを感じたのは2000年10月6日に発生した鳥取県西部地震以来のこと。

倉吉市庁舎にて

ブルーシートを無料で9時～17時まで配布している方々に話を聞いてみた。

震災直後は長蛇の列が並び、初めは名前と連絡先を記名させていたが、間に合わずとりあえず渡していくほどに。2週間でおよそ2万6千枚を配布した。使用目的は主に屋根の瓦が剥がれたため、防水ように屋根にかぶせるためであった。ブルーシートの貯蔵は16年前の西部地震の教訓で各市町村である程度していたため、今回の対応は比較的早くできた。

庁舎も階段が崩れガラスが割れている中、すぐに指揮をとり24時間体制で市民の安全確保に動いた。倉吉市内の小中学校（小学校12校、中学校5校）に連絡を取り、避難所設営ができるかの確認をとった。

避難所（成徳小学校体育館）にて

市の職員の方にお話をうかがい、避難所の中を見せてもらった。現在は6～8名くらいだったが、当時は最大で150人の避難者がいた。特に多いのがご老人で、避難理由は家屋が傾いて危険であるということもあったが、1人だと不安で仕方ないという理由もあった。災害直後は学校の管理職が協力的に動いてくださり、体育館の解放と学校の備品や教室を提供した。子供達も体育館にゴザを引くのを手伝ったり、PTAが家庭科室で炊き出しを作ったものを避難者に配布したりするなど、子供にもできることを積極的に手伝った。もちろんそこで避難所生活している子供もいた。

物資は主にダンボール、毛布、水、薬、などであり、その他にはマッサージチェア、携帯充電器、インスタント、ポットなど、避難所からリクエストがあったものも運ばれた。当時はダンボールの数が不足、つい立などがなかったり、敷布団の代わりになるのが無かったりした。

担当の市の職員は24時間の3交代制で行っていた。



2016年10月21日に起きた鳥取県中部を震源地とする最大震度6弱の地震が発生。

特に被害が大きかった倉吉市の行政の方々の動きを知る。

- ・防水用のブルーシートを無料で配布した。
- ・県外からも集めた。
- ・24時間体制の3交代制。
- ・庁舎も被災しているが市民優先に動いている。
- ・震災後すぐに避難所設営できる学校を探した。

倉吉市の行政の方々は市民のことを第一に考えてじん速に動かれたんだな。(公助)

平群町の防災体制では??

平群町役場に問い合わせ、町の公助を調べてみよう。

(メール・電話・ゲストティーチャー・手紙・インタビューなど?)

北小も避難所になるのかな?

過去にどんな災害が起きたのかな?

行政はどんな動きをするのかな?

地域も災害にそなえているらしい?

地域のゲストティーチャーに問い合わせ、地域の防災体制(共助)について調べよう。

(ゲストティーチャー・手紙・インタビューなど?)

公助は100%信用できない!?

町で防災にちなんだ祭りも企画している!

町民に防災の大切さを教えてくれているんだね。

実際に避難所の体験をしてみよう。(毛布、カンパン、α米、水、簡易トイレなど)

体育館は毛布が薄くて寒い。

しきりはあるのかな?

ここで何日も生活できるのかな?

お年寄りにはきつそうだ

倉吉市立成徳小学校が避難所になったときの子ども達の行動を知る。

・体育館にゴザをひいた。・PTAの炊き出しのお手伝いをした。Etc...

避難所でも子どもも手伝っている

お年寄りに

もし、平群町で災害が起きたときに、自分たちが手伝えることはなんだろう?

小さい子どもに

避難所全体に